



日常の彼方へ

森内俊雄と徳島

撮影 宮武健仁

眉山は
救いの山である

徳島大空襲の際、眉山に逃げ込んで九死に一生を得た体験をつづる「眉山」、鳴門を舞台にした「梨の花咲く町で」などの小説があり、徳島と極めて縁の深い作家・森内俊雄（1936～）。日常の奥に潜む孤独と不安、魂の救済といった問題を、鋭敏な感覚で幻想的に描き続けるこの作家の魅力あふれる文学世界を紹介。



2016年 8月11日～9月25日
徳島県立文学書道館

月曜休館（ただし8月15日（月）と9月19日（月）は開館、9月20日（火）は休館）

開館時間 9:30～17:00

展示解説 8月11日（木・祝）14:00～15:00

講師 富永正志（当館館長）

講演会 8月21日（日）13:30～15:00

講師 森内俊雄（作家）

9月4日（日）13:30～15:00

講師 富岡幸一郎（文芸評論家）

テーマ朗読会「森内作品を読む」

9月10日（土）14:00～15:00

観覧料 一般 510円（400円）

高校・大学生 350円（280円）

小・中学生 250円（200円）

※（ ）内は20人以上の団体割引料金。小・中・高校生は土・日・祝日・夏休み期間中無料。65歳以上の方、各障がい者手帳をお持ちの方は半額。

主催 徳島県立文学書道館

第18回徳島県民文化祭共催事業

後援 徳島新聞社 四国放送

